

商工經濟研究

第二卷 第三號

(昭和二年
七月五日發行)

歐米並に我國地理學界の現状

寺 田 貞 次

近頃歸朝致しましたに付き、何か御土産話をしなければならぬとの御下命に接しました。定めし、地理上から觀た歐米の經濟事情とか、人情風俗とか云ふ方面の話でもするだらうと、御期待下さるかば存じませぬが、此の方面になりますと、年々歳々、幾多の巡禮者が、或は講演に、或は報告に、あらゆる方法で、諸君に見えて居ますから、又同じ様な事を申すよりも、私が使命を受けまして、特に視察致しました方面に付て、御話申す方が、假令其の話は、社會を益する事は直接でなくても、聽て下さる皆様には、感興を引かなくても、私としては當然の義務であり、責任であると存じますので、「地理行脚」と云ふ様な演題の下に、歐米並に日本の地理學界の現状に就いて御話したいと思ひます。

地理と申ますと、必ずやあの嫌な地理かと、御思ひ下さるでありませう、嫌なと云ふ御感はない迄も、あの面

白くない、乾燥な地理かと、御考下さるに相違ない。自分共も、中學時代、あの白地圖に向て、山なり河なり港なりを暗記さされた時には、よい氣持はせず、擔當の先生迄が、嫌になりました。此の思想は、單に邦人許ではありませぬ、私がスコットランドのエヂンバラに、滞在致して居りました一日、大學の小使さん、小使さんと申しますと、或は法被でも召した人かと、御思下さるかは存じませぬが、英國は御承知の紳士國ですから、黒のブロックに高いシルクハット、堂々たる小使さんであります。此の小使君、自分に何を勉強して居るか尋ねますので、ジオグラフィであると答へますと、あのツライものを何故學ぶかと云つて居りました。地理をツライと感ずる事は、東西同一であるらしい。斯く乾燥である爲か、兎に角日本に於ける地理は、私出立前迄は、微々たる状態でありました。

二

普通教育、中等教育に於ける地理に付きましては、別に申分もありませぬが、地學として研究する機關、少くとも高等以上の教育に於ける地理は高等師範を除きましては、東西兩大學の地理科、東北大學及び高等商業の經濟地理、商業地理、高等學校には最近漸く設置せられた位で、學者と申ても讀む程しかなく、專攻の學生とても少く、地學の機關としても、東京に地學協會が一つあるのみであり。著書と申ても少く、雜誌と申ても、「地學雜誌」の他に、京都に「歴史と地理」最近、京大地質學教室から「地球」を發行した位で、極く微々たるものであ

りました。地理にたづさはる吾々は機會あれば、歐米地學界の様子を知り度いと思て居ました。此の度、地理研究の爲め、歐米在留を命ぜられたのを幸彼地に於ける地學の狀況を、視察致した次第であります。私の行脚致しました處は、英、獨、佛を中心として、伊太利、白耳義、和蘭、奧地利、チエツコースロバカイを旅行致し歸途、亞米利加を視察致したのであります。併し、普通教育、中等教育に於ける地理の様子は、之を視察する暇を持ちませぬので、主として、高等以上の研究機關、即ち各大學の地理部、並に特種な地學に關する機關、地學協會を初め、地圖製作所、圖書博物館等を視察致したのであります。尙一層具體的に申すれば、英國では倫敦の大學を始め、ケンブリツヂ、オクスフォード、リヴァプール、マンチエスターの各大學、北部では、エデンバラ大學を始め、グラスゴー、アバチーン各大學を視察致し、獨逸では、伯林、ライプツヒを根據に、北では漢堡、中部ではハレー、ゲツチンゲン大學、南部ではミュシヘン大學、ライン沿岸ではケルン、ボーン、フランクフルトアムマイン、ハイデルベルヒの各大學を視察し、佛蘭西では、巴里並にリヨン大學、伊太利では、ナポリ、羅馬の兩大學、和蘭のライデン大學米國では、紐育なるコロンビア、紐育の二大學を初め、北ではエール大學、ハーバート大學、クラーク大學、南ではジョージワシントン大學、ジョンホプキン大學、ペンシルバニア大學、中部ではシカゴ大學、西部ではカリフォルニア大學、同支部、南加州大學を視察しました。地學協會では、倫敦のを初め、エデンバラの地學協會、巴里、伯林、紐育の各地學協會、地圖製作では、獨逸のゴータのジユスツスベルテス社英國エデンバラなる、ジョンストン社、バーソロミュー社を視察、倫敦を初め、各地の圖書館並に博物

館を視察致しました。此の結果に依りますと、歐米に於ける地理は、亞米利加を除き、歐洲の各大學は夫々獨立した地理を設置して居ない處は殆どない。相當の研究室を有し、設備も極く完備して居り、教授も學生も、校内外を問はず、熱心に研究して居り、地學協會を始め、圖書館、博物館等も、夫々活動の色をあらはし、單に研究機關に於て許でなく、常識修養機關として、玩具に迄、地理的趣味を加味し、歐洲の地學は却々賑かである事を感じました。

三

一體、地理學は、單なる自然科學ではなく、人間を取扱ふ一種の精神科學であります。此の點に於きまして、人間の歴史と、離るべからざる關係をもつて居ますので、歴史地理が先づ開け、大學の如きも、文科殊に史學と並んで、設置されたものであります。佛國の巴里大學は勿論、獨逸の伯林、ライプツヒ、ハレー各大學の如き皆是で、伯林大學では、矢張り歴史派で、地學の元祖たるカール リッターの居た處で、歴史地圖で知られて居るキーペルトの後を繼ぎ、目下フォーゲル教授が之を擔當して居られ、地理學史の大家として名聲あるクレツチマー教授も居られます。ライプツヒ大學では、もとキーペルトの居た處で、人文地理を纏めてくれたフリードリッヒ ラツツェルも居た處であり、植民地理には、有名なハンス マイヤー教授が居ます。巴里のソロボンヌは、歴史地圖の著者として有名な、ブラツシュ教授の居た處で、勿論史學科中に設置されてありましたが、今は

全く獨立した一科として、新しい研究室を備える様になつて居ります。柏林大學の如きも、夫の支那研究で有名なりヒトホーフエンの努力で、別に海洋學博物館が建てられ、其の最樓上一帶を地理のインスチテュートに充てる事になり、大學の本館文科にある、歴史地理、政治地理は昔の儘に持續、研究室は史學部と並んで殘存して居ます。ライプツヒでは、キーベルトやラツツェルの居た教室は既に廢し、ハンス・マイヤー教授の植民地理研究室、並に郷土地理研究室を残して、新にインスチテュートを備へ、昔の歴史地理の書庫は、尙一室に保存されて居ます。ハレー大學では、人文地學者として知られたキルヒホッフ教授の居た處は、本館最樓上に遺跡をとゞめ今は本館の傍に別に研究室を備えて居ります。その他、新に出來た大學では、皆獨立した地理學部を有して居る事になつて居り、漢堡大學では、本館の北に別館が建てられて居り、ゲツチンゲン大學では、圖書館に接して地理學部が設置してあり、ボーンには、ヒリプソン教授が、ハイデルベルヒには、ヘットナー教授が居り、建物は古いながらに、獨立した學科になつて居ます。フランクフルトアムマインは、新しい建物内に、獨立の研究室を有し、政治地理の大家マウル教授が居り、ミュンヘン大學は、極く最近の立派な本館の一部が、地理に充てられて居り、巴里の如きも、ブラツシュ教授時代の遺物である歴史地理の教室は、既に廢し、本館の東南に、最近インスチテュードが新設され、マルトーンヌ教授主任として、完備を急いで居ます。英國の如きは、大抵新しく出來た研究室で、夫々獨立した地學科中に、歴史地理も研究されて居ます。

四

然らば、研究室は如何なる設備を有して居るか。設備のよいのは、獨逸では伯林大學、ライプツヒ大學、佛國では、巴里大學、英國ではケンブリッヂ大學の地理學部を擧げる事が出來ます。就中例として、私の永く居りました伯林大學を御紹介申します。伯林大學では、前述の様に、海洋學博物館の樓上が、全帶之に充てられて居るので、教室が大小二室、標本室が二室、教授室が六室、事務室が二室、製圖室二室、植民地理教室一、地圖保存室一、寫真室一、幻燈フィルム室一、圖書室兼學生研究室二、之に海洋學の書庫、並に實驗室が加つて居ます。

教室は小さい方は、學生約百名を收容し得る室で、階段式をなまず、明りをよくとり、黑板の兩側には、地圖掛の設備をなし、掛圖許りでなく、折本や圖表などをも掲げ得る裝置を有し、室の一隅には大きな地球儀を置き、地質時代の表をかゞけ、當大學で教鞭をとつた人文地理の元祖リッターの肖像は、嚴めしく室内を睥睨して居る。室の後壁は、一面にアルプスの浮彫圖になり、幻燈機を備え、電氣作用で、一齊に暗室になし得る裝置を有し、地理教授上至極便利な教室であります。大講堂は、博物館建物の中央に位し、階段式になし、數百人を優に收容する事が出來、室の中央には、大形の幻燈機を備えつけ、廣大な室であるにも拘はらず、容易に暗室になし得る裝置を有して居る。標本室は、教授用の掛圖、圖表、寫真類を初め、地理に關する器械、地質標本並に地形模型各種浮彫圖などを陳列し、殊に當教室には、地形學の大斗ペンク教授が居たので、地形學上の標本は極く完備して居ります。是は伯林大學記念錄に、ペンク教授自ら書いて居らるゝに依ても知られます。尙一つの標本室は、

地質標本や地形標本、地圖帖の類を蒐め兼て研究室になつて居り。教授室や製圖室は申すに及びません。獨逸には、植民地理と云ふ名稱で、特に植民地の研究をやつて居る、此處ではイエーガーと云ふ教授が擔當して居る、自分も聽講しましたが、何分大戰後の事とて、反て氣の毒な感がしました。植民地理に關する圖書の他、植民地の産物類をも蒐集されて居りました。歐米では、地理の講義には、必ず幻燈を用ゐます。當大學でも、此の使用は誠に巧で、フィルム保存には相當の注意を拂い之が爲め一小室が備えてありました。如何に實際的教授に重きを置いて居るかごわかります。寫眞室と云ひ、暗室と申し、設備の整つて居るには大驚の他ありません。地圖室は多數の地圖箱を備え、分類して世界各國版地圖を蒐集して居り、圖書室は、インスタチュートの兩側に在る、細長い廊下を利用し、圖書室と共に研究室に充てゝ居ます。圖書は、二段に分けて、天井に達する迄、一面に充滿され、辭書類から地理通論、自然地理、經濟地理、人文地理と云ふ風に分類し、各國の地理から最後に雜誌を備え、歐米の地學關係雜誌は悉く備付、且初號から揃つて居る。此の圖書は、前の地學の主任であつたりヒトホーヘンの遺書を基礎としたもので、書物には教授の署名が明に讀まれ、同教授に接するの思がして、愉快であります。東西兩書室に充滿豊富であると云ふだけでなく、蒐集の完全なのに驚きました。殊に各部門の圖書が、何れも出版の事代を追て、網羅されてありまして、例へば地形學の部なれば、其の元祖とも申す可き、ゲーテの地形論から、ダリナ、ペンクと云風に順々に並べてあり單に獨逸版許でなく、世界各國版の代表的のものは、悉く集めてあります。此處にさへ來れば、地理の研究は、如何なる題目でも、調べられんと云ふ事はない。方法論的に

も歴史的にも縦からでも、横からでも、充分に研究する事が出来ます、實に研究室の名に背かない。此點は羨望の他なき能はずであります。ライプチツヒ大學にせよケンブリツヂ大學にせよ、巴里大學にせよ、其の他の各大學にせよ、設備の點は、規模の大小こそあれ、大體に於て同様であります。

五

以上は地學研究室としての様子でありますが、其他の地理關係機關としましては、地學協會を申さねばなりません。倫敦の地學協會を初めに御紹介申します。倫敦の地學協會は、ケンシントンパークの附近で、倫敦市中では閑靜な方に在りまして、風雅なビラ風の三階建の建物で、綠豊かな廣々とした園内に建てられて居ます。玄關を入りますと、例の英國式の堂々たる門衛が控えて居り、備付の名簿に署名すると、隨意縦覽を許してくれる。階下は、陳列室、地圖室並に新研究品の陳列室で、陳列室には古來探險家の遺物や肖像が保存されて居る。リビング・ルームの地圖だとか、フランクリンの何だとか、扱ては極探險に水夫が命をつないだ海參だのと云ふ様なもの迄も保存されて居り、英人の勇壯な探險の當時を追懷せしめ、血肉之が爲めに躍るの感がします。地圖室は、立派な構造で、古來の地圖や地球儀等を集め、探險家の立派な畫像が掲げられて居る。次の小室は、新研究品を陳列する處で、私の訪問した時には、ヒマラヤ探險の寫眞が並べられて居ました。階上は、廊下と云はず、室内と云はず、一面の書棚で、事務室、閱覽室、休憩室などか備えつけて居る。何れも立派な構造で、閱覽室の如きは椅

子テーブルに至る迄、自分共には過分な贅澤なもので、各國の地學雜誌から、近着圖書迄並べられて居り、閑靜な點氣持のによい點に於て、無上の好研究室、こんな研究室を持って居る倫敦市民は幸だと、熱々感ぜしめられました。巴里の地學協會の如きは、會長であつた大奈翁の姻戚たる、ボナパルト家が其の建物藏書を擧げて協會に寄附されたので、今は倫敦の地學協會どころでない、立派な建物が協會に充てられ、是亦完全な研究所たるを失ひませぬ。米國では、紐育に大きな地學協會があります、新しいだけに規模も大きく、萬事整頓して居り、流石米國と感心しました。此地學協會は、單に一ヶ所だけではなく、各都市に設置され、夫が又多くの支部を有し、圖書の供給を始め、或は地方の研究に、講演に、各方面に向て、地學上智識の向上に貢獻して居ます。

此の他、地理關係機關としては、地圖の製作所、獨逸ではゴータ、英國ではエヂンバラに在るジョンストン、バルソロミューの兩社を観ました。何れも學術的に、絶えず新しい研究を發表して居るには、非常な興味を以て縦覽しました。斯く、直接な地理機關の他に、地的常識を養成する設備は、少し注意して居ますと、圖書館と云ひ、博物館と云ひ、乃至はデパートメントストアの玩具室に至る迄、至る處之を發見することが出來ます。

六

博物館は、歐米では日本と異いまして、單に美術品許でなく、各方面の常識修養になる標本が、陳列されて居ます。歴史物を始め、動植礦物は勿論、地理に関する標本も少くありません。獨逸のミュンヘンに、最近完成し

ました、ドイツツエムゼウムの如きは、規模の大きなもので、鑛山採掘状況など、産業状態をよく理解せしめると云ふので、好評を得て居ります。亞米利加のフィラデルフィア博物館の如き、玄關の大廣間には、其の周壁に、歐米に於ける科學者の畫像を掲げ、室の中央には、大きな電燈を應用せる、硝子製の半地球儀を備え、飛行機での極探險をあらはして居ました、各國競争の様子があり／＼と見えて、流石は活動的な歐米人、是迄探險に興味を持って居り、是迄に其智識の普及を計るかと思ふと、熱心さ、敬服せざるを得ません。又シカゴ博物館に参りますと、地理關係の室か、一、二室在りまして、其處には、米國內各州並に特種地形を有する地方の、大きな浮彫圖が陳列されており、詳細な説明が附してあります。此處に來て、始めて米國を理解し得た様な感到うたれました。一寸來た自分にでも、之だけの感を與へるのですから、毎日縦覽の機を有する米人には、如何によく印象する事かと思はれました。普通の博物館の他に、商業に關する博物館も各所にあります。倫敦大學には、廣大な植民地物産の陳列館が在ります。植民地に産する物産は、細大洩さず蒐集され、之を説明する寫眞や圖表、地圖の類迄も備え、用意周到に陳列してあります。英國の植民地は、地球上に廣く分布して居りますので、單に英國の植民地を味ふだけでなく、云はゞ世界を味ふ事になりますので、一人有益に縦覽しました。フィラデルフィア府には、大規模な商業博物館があります、世界の重要商品を網羅して居る事は勿論、商業歴史に關する標本迄巧に出來て居るのを見て、多大の興味を引きました。歐米の博物館は、單に博物館として、靜止的になつて居ない。其の陳列品を利用して、實物教授をやる講義が開かれます。毎週時間を定めて講じ、一般の希望に對する

許でなく、小學校の生徒を、一週何度と時期を定めて、來館説明を與へます。又先生が時々生徒を引率して、自分で説明をして居るのも見受ました。フィラデルフィア府の商業博物館の如きは、數百名を收容し得る大講堂を備え、一週何回か市内の小學生を集めて、商品に關する講演をやる様になつて居ます。之を以て觀ましても、歐米に於きまして、地理的智識の養成に、如何に心を注いで居るかを、御察し下さる事か、出來ようと思ひます。然し、地理的常識の修養と云ふ點に付きましては、單に今述の特種機關に於て許でなく、あらゆる方面に於きまして、修養し得る様に工夫を凝らして居ます。卑近な例で申しますれば、夫の諸方に在るデパートメントストアに參りましても、決して無意味には見過す事は出來ませぬ。私は何時も玩具部に注意を引き、地理に關する玩具が却々多くあるのに、多大の興味を感じました。日本でも、近頃は、だいぶ此の方面にも注意を拂う様になり例へば、地理變六とか、地圖の組合せとか、地理教授を目的とした玩具を見受ける様になりましたが、歐米でも却々思考を凝らして、色々のものを造て居ります。昨年十月ウイン府で縦覽しましたメッセーには、商業地理を應用した變六を發見しました。臺紙になつて居る世界地圖と申し、其説明と申し、意外に高尚なもので、日本の兒童には、到底不向であらうと思はれる程であります。之んな玩具を容易に遊び得る兒童が、歐洲の兒童であるしますと、餘程地的修養に富んだものと申さねばなりません。

七

段々視察して見ますと、歐洲に於ける地理學界並に地理的機關は、豫想外に賑かなもので、御蔭で二年有餘の歲月も、寂寞を感じないのみならず、日尙足らぬの思ひで、過す事が出来ました。斯く、歐洲に於ける地理界の賑かなのは、何が爲であらうか、私は歐米人の世界に對する考へが、邦人などとは異て居る爲であらうと考へます。日本は、地積の狭小な島國で、四圍環海でありますから、住民は海事思想に富むとは、よく人の申す處であり、或は和冠とか、或は徳川初期海外貿易家とかを、其例證とする事もありますが、亦或る文學者は、日本の思想の表彰である和歌韻文の中から、海事思想に關したもの許りを選んで、研究して見た處が、結果は案外にも、日本人が海事思想に富で居ない、否寧海外に出るを欲しない住民であると云ふ結論に達したと、何處かで聞たと記憶して居ます。或は、島國である爲に、海上交通の便利でない時代には、海が交通を阻害し、從て外に出る事を好まぬ風習を養成したのも、事實かも知れませぬ。之に反して、歐洲は地積狭小、地味も氣候も、概してよくないので、人間の住地としては、決して理想的の處ではない。從て、古來海外に新天地を求めんとするの思想を養成し、其の結果、新大陸の發見となり、世界に植民するに至つた。單に地的關係が、海外發展を促した許でなく、歐人の體力其のものが、又日本人に比べて、意外に強大であります。日本には一種固有の精神があるからこそ、強くありますけれども、此の特殊の思想をぬきにした體力、忍耐力だけで申しますれば、吾々は必ずしも歐人に勝るとは申す事は出来ませんまい。歐洲で、諸方の裝飾用に供して居る、繪畫などを觀ますと、戦争の實況などが好んで掲げられて居ます。然かも勇敢と云ふよりも、寧殘忍な、見るに忍びない様な繪が少くありません。

歐人は、之を何と思つて眺めて居るのであらうか、思へば歐人の心理を表はすものではありませんまいか。夫の獨逸民族が移動した時の如きも、女性が戦場迄出かけて、猛烈に應援した話は、友人からよく聞かされた例で、日本などで、思ひも依らぬ勇壯な有様であります。卑近な例だが、汽船中に於て少々の風波があつても、日本人はよく弱りますが、大抵の外人は平氣で居ます。此等を以て觀ましても、歐人の海に慣れ、海外に出る事を、何とも思はぬ人間である事が判ります。殊に、植民地が世界的になつて居ますから、海外に行く事を他國に行く氣では居りませぬ、日本では、近頃漸く海外に出る者が多くなつたのを觀て、猫も杓子も行く様になつたと、笑ふ人もありますが、此等は日本人の狹量を示すものと云ふて宜しい。一般の思想か、こう云ふ風で、云はゞ世界的でありますから、自然と世界と云ふものを忘れず、世界と云ふものに興味を有し、從て世界を研究の目的として居る地理の發達を促し、地理の隆盛を來した原因であらうと考へられます。

八

然らば、亞米利加は如何。音に聞く大きな、有力な、亞米利加でありますから、定めし地理も見事なものがあるだらうと、期待に期待を囑して、紐育に着き、早速、コロンビア大學を訪ねて見ました。現今亞米利加に於ける經濟地理の大家たるラツツエル スミス教授が居る處だから立派な研究室でもあるだらうと思つた處が、豈圖らんや、氏はビジネス スクールの一科を擔當して居るだけで、研究室らしいものもなければ、圖書室の藏書を見

でも、極く通り一遍のもの許りで、一向感服し得なかつた。同市に在る、紐育大學を訪ねて見ても、亦同様單に一科として、經濟地理が置かれて居るだけで、地質の教室は在ても、地理は殆ど何等設備を有して居ない、大に失望しました。失望は決して是だけでない、エール大學、此處には人文地理で知らるゝハンチングトン氏が居る矢張り失望で、氏は地質教室の一部に燻ぶり、僅に地學會を司つて居るだけでありました。

ハーバート大學、此處には以前名高かつた、經濟地理學者のブリガム氏が居た處で、又現代地形學の大斗である、デービス教授も居た處であるから、是又大に期待して行きました處、是も大失敗、地質學教室中に、地理のラボラトリーと云ふのを發見はしたが、今は講義もなく、荒はてたる状態には、呆れざるを得ませんでした。紐育以南は如何と、ワシントンから、バルチモア、フィラデルフィアと念の爲め巡歴して見ました。ワシントン府には、ジョージワシントン大學と云ふのが在る、名稱がよいから、此處こそはと行て見ると、之はいかに、他の大學に比し、實に粗末で、小さい赤煉瓦の教室が、路傍に並で居るだけで、大學とも思はれぬ有様、如何に搜しても Geography の表札が見つからない、漸く、文學部内に在ることを聞たので行て見る、地質の教室で、何等設備をもつて居ない。同市にはもう一つハーワード大學と云ふものが在る、念の爲め訪ねる、校庭は廣漠木立もの古りて、よい大學でありますが、黑人教育の學校で、地質學は在つても、地理は全く置かれて居ない。折角遙々來た効が更にありませんでした。カーネギー・インスチテュートは、大規模に諸方面の研究をやつて居ると聞きましたから、是又遙々と行て見た、地球物理の研究は、盛な様子でありましたが、遺憾ながら地理はありません。

せん。バルチモアのジョンホプキン大學、フィラデルフィアのペンシルベニア大學、此等はワシントンよりは優
して、各大學共經濟地理が稍盛に研究されて居ます。然し、前者は地質科中に、後者は商科の一科として置かれ
て居るのみで未だ獨立した地理學は發達して居りませぬ。要するに、亞米利加では、地理は全然失望の状態であ
ると申して宜しい。唯太平洋沿岸に出まして、桑港で加州大學をロザンゼルスで加州大學支部を觀るに及んで始
めて幾分の意を強くするあるを悟つた次第であります。

九

然らば亞米利加では、全然地理を度外視して居るのであらうか、亞米利加ともあらう國が是は何故であらうか
或は亞米利加は、あの様な新聞地で、歐洲植民人の寄合場であり、云はゞ本國で地理の素養をつくつた人が、來
た處であるから、殊更地理を研究する要がなかつたのと、一つには亞米利加は、御承知の地産に富で居る處であり
ますから、住民は全く物質的、實利的に走り、學理など攻究する暇がなかつた爲でもありませう。其の證據に、
亞米利加では地理を全然度外視して居るのでない、經濟地理のみはどの大學にも置かれてあり、經濟地理科のな
い大學は、特殊大學を除ては、一つもありませぬ。併し現今既に地理を輕視すべき秋でない、將來益々盛にする
要ある事を悟て來ました。即ち亞米利加は地理に覺醒致したのであります。此處は亞米利加の面白い點で、無け
れば全く無いが、一朝覺醒したとなれば、思ひ切つた事をするのが亞米利加であります。

近時亞米利加では、大規模な地理研究室を設立しました、申す迄もなく、シカゴ大學と、今一つはウオスターに在るクラーク大學とであります。聞しに勝る大規模なもの、クラーク大學の如きは、三階造の高壯な建物で新しいだけに綺麗で、明のとり方も巧であり、極く氣持のよい研究室であります。階下は小室に區劃し、大學院學生の研究に充て、二階は講義室と教授の控室、三階は大講堂と經濟地理の研究室になつて居ます。英國の某教授が、此の地學教室を評して、世界唯一の大研究室であると申しましたのは、過言でありませぬ。單に建物の規模に於て許でなく、内容も充實、教授の如きも驚くべく多く、歐洲では大抵多い處でも五六名に過ぎませんが、此處では二十名、シカゴ大學が十名に達し、有ゆる方面から研究致して居ます。人文地理で知らるゝセンブル女史の居るのも此のクラーク大學で、ラツツエル流の人文地理を普及せしめて居ます。他の教授の如きも、各々專攻地が定つて居り、シカゴ大學のジョーン教授は東亞專攻、クラーク大學のジョーン教授は南米專攻と云ふ風で、各其の專攻地に滞在、又は親しく旅行して、研究して居ます。其の遣り方の大規模な、建物の大規模と合はせ、流石は米國と溜飲が下りました。

斯く、亞米利加に於ける地理が、一方に於て極端に微々たる状態であるかと思ふと、又一方に於て極端に盛なと云ふのは、全く米國が地理の必要を認め、之が覺醒を示して居るもので、現にクラーク大學一覽を見ますと、地理研究室設立の理由を論じ、米國は既に昔の米國でない、現今の米國は將に世界の指導者たるの位地に居るのである。夫には先づ地理の研究を充分にしなればならない。從來米國にして、地理を科學的に研究しなかつた

のは、大なる誤であつたと、堂々と自白して居り。コロンビア大學教授ラッセル スミス氏の如きも、小冊子を出し、地理學の必要を論じて居られます。

由來、亞米利加は、國土が廣い許でなく、地形の發達が多様で、至て變化に富だ國であります、地理の研究には至極都合のよい處で、有名なデービス一派の地形學が發達、歐洲の地形學と相對するに至つたのは、全く是が爲めで、英人は素より、獨逸の學者ですらも、米國には一目置いて居ます。此等は決して獨逸が經濟上の關係から申す一時のお世辭ではない。亞米利加の地理が、將來地學上に一大革新を齎すものと深く信じて居るからであります。地理を度外視して居ると考へられた亞米利加にして、既に覺醒致したとしますと、歐米の地理學は、非常に賑かなものと申さねばなりません。

10

然らば我國は如何であらうかと、太平洋を渡り、愈々横濱に歸着、何は扱置き、本屋を覗いて見ました。横濱の燒跡は充分復舊して伊勢佐木町には書店を發見し得ました、又東京に出ましては、神田の書店を方端から漁つて見ました。尤もロサンゼルス迄來まして、値段の最も易い雜誌だと云ふ、キングに始めて御目にかゝり、だいたひ雜誌界の賑つて居る事は悟つて居ましたが、扱て本屋の店頭に立ちまして、先づ印象しました事は、雜誌が無闇に多くなつたと云ふ事でありました。中に「歴史と地理」や「地球」が眼につく、雜誌屋の店頭で専門雜誌を見る

などは、從來餘り聞かなかつた事で、悦ぶ可く祝すべき現象と申さねばなりません。「歴史と地理」や「地球」のみでなく、最近の創刊に係る東京帝國大學地學部出版の「地理學評論」を初め「地理教育」「人文地理」と銘打たる雜誌などが注意を引きました。暫く不在の間に、地理學界が斯くも賑いだかと、愉快に堪えませんでした。單に雜誌許でありませぬ。書棚には、前から聞て居た伏見氏の譯本、人文地理概論が、既に出來上つて、よい本になつて書棚を飾て居り、學友藤田元春氏の支那旅行も、「西湖より包頭まで」と云ふ六ヶ敷い名題の下に、綺麗な本となつて注意を引いた。此他新版の地理關係書が、少なからずあるのを觀察した。出立前人文地理と申せば、早く出版された、牧日氏の人生地理か、横山氏の人文地理か、野口保興氏の幾多の著述か、僅に書棚の塵に塗れて居るに過ぎなかつたのに、比べますと、我が地理學界の變遷を忍ばざるを得ませんでした。こうやつて地理専門の人士が多數に出られて、其の向ふ處に従て研究され、初めて地學も進歩し、社界一般の地學思想も増し、地的常識も備はる事が出來るので、至極目出度い事と申さねばなりません。歐洲では、地理の教育が盛であるだけに、斯學の専門家が非常に多い、専門家が多いだけに、歐洲に關する地的事項は、細大洩さず研究され、何一つ調査の出來て居ないものはないと云ふ有様で、日本の様に未だ調べられてないのが、原則の狀態とは趣が違います。専門家が多く出てこそ、初めて此の程度に迄到達する事が出來るので、専門家の殖えると云ふ事は、或は就職上に影響するとか、利害關係はないでもありませんけれども、所謂斯道の高等遊民が、多數出來なければ、學問は進歩するものでないと思ひます。此の意味に於きまして、専門雜誌が多くなり、専門家の輩出は、何より祝す可

き現象と、衷心悦んで居ります。然し、翻つて我が國地理學界の現況を考へます時、私は未だ充分であると申す勇氣を持ちませぬ。これから未だ知識者の御一考を願はねばならぬ點が、多々ある様に思はれます。試に今述べて參りました、歐米の様子を、我が國の夫と比べて見ませう。

二

先づ第一は、地理研究の高等以上學校に於ける様子であります。我が國では、高等師範は勿論、東西兩大學に地理學を、新設の東北、九州兩大學に經濟地理を、高等商業に商業地理を、極く最近に高等學校に、地理科を設置する様になりました。一見盛な様ですが、其の實、高等學校の如きは、以前高等中學と申した時代に、其の法文科に、政治地理が置かれてありましたが、統計の羅列で益がないと云ふので中止され、其の後は、高等學校には地理の設置がありませんでしたのを、山崎理學博士の御骨折と思て居ますが、漸く地理を設置する様になつたのであります。設置されたのは結構ですが、單に一週二時間の講義で、専任の教授すら置く事が出来ない、歴史の教授で彌縫するか、さもなくば、兼任と云ふ淋しい地理であり。高等商業と申ししても、最初は一週四時間の講義で、相當盛なものでありましたが、段々と減少今は神戸を除く他は、大抵一週二時間になつて居ます、規定の表面は、一週三時間とか一、二年を通じて一、二時間とか、書いてありますけれども、事實は全く之に反して居るのが多い様であります。斯く申す私は、一週二時間が少いとか、時間の問題を云々するものではありません。

唯かゝる傾向は、即ち地理に對する一般の考か、奈邊にあるかを示すものと思ふので、此處に例と致した次第であります。

大學の如きも、現今東西兩大學に地理學が置かれて居ります、文學部の史學科中に置いてあるので、東京大學では、最近に山崎理學博士の肝煎で、理學部に新に地理學が設置されました。文科の地理とは全く別に教室研究室も出来、日本に於ける唯一の地理學部と申して宜しい。東北大學でも、九州大學でも、單に經濟地理と云ふ名目で、法文科の一科として置かれて居るに過ぎぬ。勿論、日本の文科中に、地理の設置されたのは、地學の性質上、史學と關係密接であり、歐洲で最初文科中に置かれたのを學んだものでありませうが、今述べました様に、歐洲では、文科中の地理は、現今既に昔の遺物として、残つて居るだけで、大抵は全く獨立して、研究致す様になつて居るにも係はらず、日本では、尙最初の儘で、存続して居る有様であります。東北や九州で、經濟地理だけ課して居るのは、或は北米でも學んだのかも知れませぬ。其の北米も、今は既に覺醒致し、獨立した地學の發達に、力を用ゐて居る時代になつて居ます。して觀ると、日本の現況は、尙歐洲の昔の時代が、北米の覺醒以前の狀態にあるものとしか考へられませぬ。

學校以外、地理の機關と致しましては、地學協會であります。日本にも、幸ひ東京に唯一つの地學協會が在ります。歐米では、探險其の他、仕事が多い爲でもありませう、決して一國に一つなどゝ、限られては居ません。相當な大都市には、大抵此の設置があり、さもなくば、支部が置かれて居り、或は講演に、或は圖書の供給に、

地的知識の普及に、怠がない。之に反し、日本には、後にも前にも唯一つしかない、歐米の探險家が立寄たとか昨夏の様な世界的の學術大會が、開かれるとか云ふ場合には、唯一つでも無きに勝る。若しなかつたならば、夫こそ一國として恥辱であるが在つてよかつたなど、誰か云はれたのを記憶して居りますが、日本の協會は、未だその極度を脱せぬものかも知れませぬ。併し發行の雜誌は、日本唯一の地學雜誌で、價值ある論文の發表が少くありません。歐米諸國でも、大に期待して居ます。倫敦の地學協會には、地理に關する書名、論文の分類カタログが完備して居ます。之には書名の他に雜誌に發表された要論文をも網羅して居ます。我が地學雜誌中の論文も、收録されて居ます。倫敦地學協會許でなく、私の視察した處に依りますと、他の地學協會でも、亦大學の地學教室でも、何れも日本の地學協會雜誌を要求して居ります。よい論文が出るので結構だとか、お世辭を云ふくれるのもありました。歐米の圖書館や、研究室に行て見ますと、日本の雜誌、報告書としては、醫科の研究報告は勿論、地震協會雜誌か、學術普及會の報告などは、見受られますが、地學に關するものは、殆ど何も見られませぬ。日本唯一の地學雜誌ですら、以前には、來て居た形跡があつた處にせよ、今は來て居ないのでありますから、他は推して知る事が出來ます。折角の研究を發表する機關少しは歐米の學界にも、御裾分けをしてやつては如何なものでせう。

三

次に、地理的智識の普及機關として、博物館、圖書館を觀ます。歐米では、大都市には完備した圖書館が在り各方面の書物は完全に蒐集されて居る。素より圖書館を悉く觀たわけでありませぬから、斷言は出来ませぬけれども、自分の見た範圍では、地理部でも、決して不備ではない事は云ひ得ると考へて居ます。之に加へまして各地に地學協會もあれば、大學の地理研究室もありますから、地的の智識を養生する上にも、亦地方人士の地理の研究にも、決して不便はない。處が日本は、大都市には圖書館も相當に出来て來ました、然かし、大抵は極く普通な月並な蒐集が目的になつて居まして、専門のものには不備になつて居ます。從て、地理などの研究には、少しも御蔭がありません。少し深く調査でもしようと云ふ事は、地方では先づ不可能で、研究は大學なり専門學校に居る、極く限られた者の獨占と云ふ形になつて居ます。從て、學問もそう云ふ便宜のある處に居る人の、獨占と云ふ姿を免れませぬ。然らば、研究室と云ふ風のものはないのか。研究室と名のつく設備は、決して少くありません、隨分多數在る事と信じます。唯問題は、研究者を満足せしめ得るだけの設備がある研究室が、どの位あるかと云ふ事であります。それでは、折角室だけは立派であつても、名目だけは、研究室であつても、遺憾ながら何等研究の實を擧げる事は出来ないと考へます。私は、歐米諸大學で觀る様な、極く徹底した、研究室を設備致したいと、切に願て居ます。出来れば、自分一己でも、地理の完全な研究室を設立、研究者の便を計りたいと、望んで居る程であります。

尙、地的機關と致しまして、地圖の方は如何。地圖の製作の如き、歐米では、盛なもので、どんな地圖でも、

出来て居ない事はなく、又手に入れる事も困難でありませぬ。歐米人は、地圖使用上の常識を、充分に備えて居ます。處が、日本では、地圖の利用は、尙幼稚で、地圖は單に一種の店頭の裝飾位に考へて居るものが多い様に見えます。地圖の利用が少いから、地圖の出版も困難、結局相方共に進歩しないと云ふ事になります。殊に、大震災後は、出版元の罹災で、現今は非常に不便を來して居るのであります。歸朝後、地理教授用として、日本地質圖を求めやうと思たが、既に絶版になつて居るので、手に入らない。幸ひ京都の書店で發見したが、購入に付て學校と交渉して居るうち、他に取られてしまつた。又讃岐邊の地質圖を備えて置きたいと、搜したが、是亦同様失敗に終つた。京都帝國大學地質學教室に付てたづねて見た處、新設の教室とは云へ、流石は大學、設備されて居たから早速うつさせてもらひ、段々見て見ると、地質圖は先の大震で原版が焼失した爲に、今は全く絶版の姿となり、目下再版の見込みもない様子。地質教室ですら全部は揃つて居ない。漸く、教授の私有品に裏うちをして大切に保存して居るのであると云ふ事でありました。單に地質科に於て許でなく、地理上にも最も必要な地質圖が、此の調子では、不便の極と申さねばなりません。地理科の方は兎も角、肝心の地質科では、學生の研究にどうして居るのだらうと、更に聞いて見ると。其都度色鉛筆が何かで、地形圖の上にうつすのであると云ふ事でありました。一回や二回の事なら兎も角、大勢の學生が、時々野外研究に、こんな手数をやつて居ては、堪つた事ではなからう、日本の地圖に不便な事は、此一事でも察する事が出来ます。

博物館と申すと、日本にも東京、京都、奈良を初め、地方にも段々と出来て居ます。然かし、大抵は佛像の保

管場の様な有様で、全く美術館であります。美術館としては、是程立派なものには他にありませんけれども、佛の顔も三度見れば腹が立つ流で、一般の人には餘り博物館を顧みる要がない。常識修養の機關としては、何等價値を有しない。夫で、日本の博物館は、多くは無用の長物視されて居る。博物館の一種なる商品陳列館も、諸方に設立されて居ます、併し、是も多くは、地方の物産を陳列せるに止まり云はゞ一種の勸工場に過ぎない。如何に地方の名産と申しても、醬油や團扇の類を、いくら數多く並べて見た處で、少しは廣告になるかは知らないけれども、地方人士の常識修養にも何もならない。要は、歐米に見る様な、眞意味の博物館でなくてはならないと云ふことになります。各方面の智識を網羅したものでなくてはならないのであります。今度文部省で、眞の博物館を經營する企があると、紙上で承知したのは結構な事と、密かに悦んで居ます。こう云ふ處に、地理に關する標本をも多數に集めて、地的智識の發揚に、つとめてもらいたいものと思います。

斯く、歐米の夫と比較して見ますと、日本の地理研究機關、並に地的智識普及機關は、尙未だ〳〵歐米に及ばない處、遠きに居るを遺憾に思はしめます。

III

そんならば、日本は地理など研究する要はないのであらうか。地的常識の修養をつとめる要を感じないのであらうか。定めし、必要がないと御云いの方は、先づないと存じます。此の太平洋問題の喧しい、歐米の視線は悉

く太平洋の、此の一角に集中しつゝある秋に當て、此の太平洋の將來に向て、一大任務を帶べる我が國として、將人口上から見ましても、其の他あらゆる方面から觀ましても、決して必要のない許でなく、大に覺醒しなくてはならぬ事と申さねばなりませぬ。

どうか賢明なる諸君、日本現時の大勢に鑑み、從來等閑に附せられ易くして、然かも將來愈々重要な、此の地理の研究をして、益々發達せしめ、地的常識の普及を完全になし得る様、事に當つて御盡力下されん事を、切望致す次第であります。之には如何せば宜しいか夫等に付きましては、前から述べて參りました、諸項に付て、御吟味下されますれば、自然に御判り下さる事と存じます。

私當地に參りまして、意外にも此の種設備の出來て居るのに、少なからず驚き、且悦びました。坂出には、鎌田氏の熱心で、立派な圖書館や、郷土博物館の設備が出來て居り、今又社會教育館も成つたと聞き、世の爲め、社會の爲め、至極結構な事と、悦の他ありません。詰らない事を、長々申述べましたに係はらず、幸ひに御靜聽下されました、熱心なる聴衆諸氏に對し、深く感謝致す次第であります。(終)